防除所レポート

令和７年におけるトマトキバガのフェロモントラップへの誘殺状況について

トマトキバガは、主にナス科植物を好み、トマト等を食害する侵入害虫です。

茨城県では、令和４年から県内４地点にフェロモントラップを設置し調査しています。今回は、令和７年におけるフェロモントラップへのトマトキバガ雄成虫の誘殺状況についてとりまとめましたので参考にしてください。

［本年の発生経過］

① フェロモントラップへの誘殺時期は過去２か年より早い４月上旬から確認され、５月中旬以降、継続的に誘殺された。

② 前年と同様に、９月から誘殺数が増加し、10 月に誘殺ピークがみられた。11 月第６半旬にも、地点あたり 0～1.4 頭の誘殺が確認された。

③ ４地点の総誘殺数（４月～11 月）は、403 頭で過去２か年より多かった。
〔令和６年（４月～11 月）：180 頭、令和５年（６月～11 月）：５頭〕

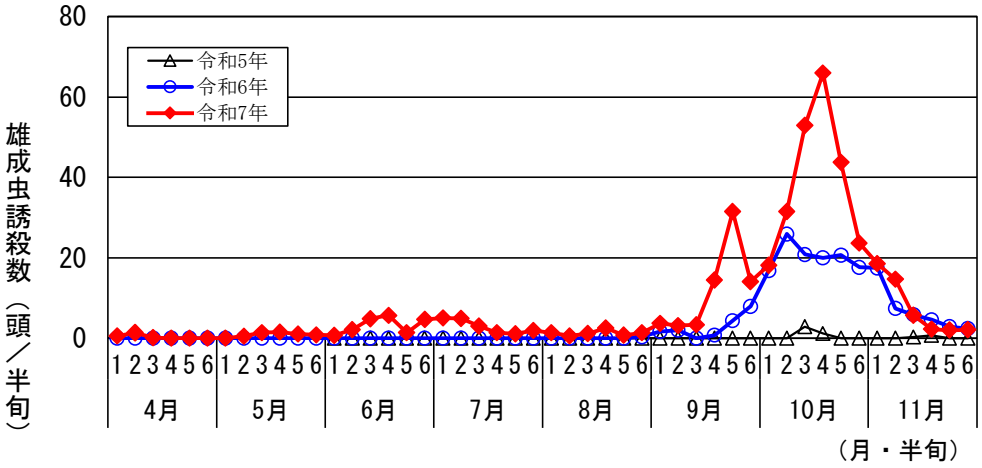

図 フェロモントラップへのトマトキバガ雄成虫の誘殺状況（県内４地点合計）

［今後に向けた対応］

・県内では農作物の被害は確認されていないが、近隣県では報告されているため、県内においても今後の発生に注意する。

・トマトキバガ幼虫による被害葉はハモグリバエ類幼虫による被害葉に似ているので、トマトキバガによる被害の特徴を確認し（令和７年 10 月 22 日発表「病害虫速報 No.6」参照）、被害を見落とさないよう注意する。

・トマトキバガの発生や被害が疑われた場合は、最寄りの農業改良普及センター、病害虫防除所に連絡する。

・コナジラミ類の防除対策を兼ね、施設内への侵入および施設外への飛び出しを防ぐため、開口部に 0.4mm 目合いの防虫ネットを設置する。施設ビニルや防虫ネットに破損がある場合は必ず補修する。

・降雪地域において、冬期間もビニル被覆を行う施設内では越冬の可能性があることが報告されている。また、幼虫はマルチなどの資材の隙間に入り込み蛹化する性質があることから、本虫が定着した施設内では根絶することが困難となることが懸念されるため、早期発見、早期防除に努める。

茨城県病害虫防除所　病害虫発生予報１月号（令和８年）より抜粋